

今週のみことば

「誓ってはならない」

(マタイの福音書5章33～37節)

「しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません」
(34)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○イエス様は、今日の所で「決して誓ってはいけません」と仰っています。なぜ、このように仰ったのでしょうか。ユダヤの人々は、その昔から「誓約とか、誓い」とかいうことをとても大事にしていました。なぜなら律法にそう書いてあるからです。例えば、今日の5：33の『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』という御言葉は、レビ19：12など2、3カ所に見られます。同じレビ記の5：4にも「軽はずみな誓いをしたならば、罪を負う」とあります。いい加減な気持ちで守れない誓いをしてはいけない、ということです。

ユダヤでは、天や地やエルサレムを指して誓う習わしがありました。「神の名をみだりに唱えてはならない」という十戒の言葉を守るため、神の名を指して誓う代わりに、天や地やエルサレムを指して誓ったのです。しかし、これを利用して、いい加減な誓いをする人々が出てきました。つまり、「私は天や地やエルサレムに対して誓ったのであって、神様に対して誓ったんじゃない、だから破っても神様を裏切ったことにはならない」と自己弁護をする人々が現れたのです。そしてイエス様の時代には偽りの誓い、見せかけの誓約が日常茶飯事になっていたようなのです。

○イエス様は「決して誓ってはいけません」と言われましたが、それは禁止が目的ではなく、誓いが簡単に破られる風潮を戒めようと思われたのだと思います。そして同時に、あなたの言葉をもっと大事にしてください、という前向きの意味があるのだと思います。誓いの言葉においても、日常的にかわされる私たちの言葉においても、そこに真実があることを求めておられるのだと思います。

37節に、「あなたがたは『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい」とあります。政治家がよく「是々非々で行いたい」とか答弁しますが、あれは「一定の立場にとらわれず、よいことをよいとして賛成し、悪いことは悪いとして反対するという意味ですね。つまり、真実に対処するという意味です。イエス様の場合は、政治家のような対処ではなく、私たちの心のありよう、言葉にこそあなたの真実な心を表しなさい、という勧めなのだと思います。これらのイエス様の思いを心に受けとめ、私たちも日々の言葉を大切に、歩んでいきたいと願うものです。